

感染症学 I

授業概要

易感染性宿主の増加や薬剤耐性の病原体の増加に相まって、感染症の劇症化や難治化が進行しつつある現状を踏まえて、感染症を種々の病原微生物の病原因子と宿主側の繰り出す防御バリアーとの攻めぎ合いと言う視点で捉え、感染症に対する宿主の生体反応および感染抵抗性の全体像を統合的に考え、理解し、把握することを主な履修目標とする。

担当教員

吉山裕規（主担当）	教授・微生物免疫学（微生物学）
熊倉俊一	教授・地域医療教育学
磯部 威	教授・呼吸器・臨床腫瘍学
佐野千晶	准教授・微生物免疫学（微生物学）

一般目標 general instructional objectives

1. 病原微生物とヒトをはじめとする生体との宿主・寄生体相互関係を感染免疫学・分子生物学的な観点から理解する。
2. 感染症の予防・診断・治療に関連した最新の学問的な知見について生体防御論的な視点から理解する。

行動目標 specific behavioral objectives

1. 主な病原微生物の病原因子の作用メカニズムと病原因子に対する生体反応について説明出来る。
2. 主な病原微生物に対する宿主感染抵抗性の発現メカニズムについて感染免疫学的な観点で説明出来る。
3. 感染症の診察、検査法、予防の基本原則について説明出来る。
4. 感染症治療薬の概要と臓器別の治療指針について説明出来る。
5. 局所感染症の特異性と生体防御メカニズムについて説明出来る。

成績評価の方法

講義のテーマごと、および演習のテーマごとのレポートの評価、セミナーへの出席による。

使用テキスト・参考文献

- ・病原菌の今日的意味 松本慶蔵 編（医薬ジャーナル社）
- ・感染：ウイルス・細菌感染論の最前線 竹田美文，野本明男 編（メディカルビュー社）
- ・解明が進むウイルス・細菌感染と免疫応答 分子メカニズムから新たな治療戦略まで 笹川千尋，柳 雄介，審良静男 編（羊土社）
- ・レジデントのための感染症診療マニュアル 青木真 編（医学書院）

・感染症診療のコツと落とし穴 斉藤厚 編 (中山書店)

教育内容 (講義および演習)

回	授業内容	担 当
1	人類と感染症の歴史	熊倉俊一
2	病原因子 1. 細菌の病原因子の生体への作用メカニズム	佐野千晶
3	病原因子 2. ウイルスの病原因子の生体への作用メカニズム	吉山裕規
4	細胞内寄生菌による感染症の成立メカニズム	佐野千晶
5	感染症と免疫 (自然免疫と獲得免疫)	熊倉俊一
6	ウイルスの急性感染と潜伏持続感染	吉山裕規
7	耳・鼻腔・上気道の免疫機構	佐野千晶
8	感染症に伴う免疫制御機構の破綻	熊倉俊一
9	院内感染制御	熊倉俊一
10	呼吸器感染症	礒部 威
11	抗酸菌症の臨床的話題	礒部 威
12	演習 ウイルスの増殖と感染細胞の組織変化	吉山裕規
13	演習 抗菌薬のPK/PDについて	礒部 威
14	演習 感染症制御のためのサーベイランス	熊倉俊一
15	演習 上気道感染症診療の理論と実践	佐野千晶